

# 寄り添う

子どもを育てるよきパートナーになろう

日常的に、保護者や子どもとの雑談などのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築きましょう。

「子どもに会って話したい」「家でどんな様子が確かめたい」

・・・あまり強く働きかけるとプレッシャーを与えてしまいます。もっとも大切なのは家族を焦らせないことです。受け入れ体制を整え、それを伝えることを優先しましょう。

## 面談の基本姿勢は保護者の目線で

- 電話やメール、手紙ではなく、できるだけ直接会って話す。
- 保護者の養育態度を責めない。
- 子どもの性格や態度を批判しない。
- 謙虚な気持ちで聴き、安易に原因を決めつけない。
- 一気に解決しようとせず、具体的に今できることは何かを探っていく。
- 受け入れ体制を説明して、保護者の不安を和らげる。
- 連絡を密にし、家庭での様子や変化について伝えてもらう。
- 配付物等は必ず渡し、学校とつながりが切れていないことを示す。

面談によって、保護者の不安を和らげ、学校との協力関係を築いていきましょう。  
保護者の話の中には、不登校の子どもへの働きかけのヒントがたくさん隠れています。

学校と家庭とのつながりが途切れないよう、こまめに連絡を取りましょう。

## 面談に当たって

- 面談場所（来校相談か、家庭訪問か）は保護者の希望に沿うようにする。
- 時間は、家庭訪問は30分程度、来校相談は1時間程度をめやすとする。
- 学級担任以外の学校側の参加者は、あらかじめ保護者に理由とともに伝える。
- 面談の前には、様々な情報を把握しておく。
- 場合によっては、外部の相談機関や専門機関を紹介できるように準備しておく。

### <来校相談>

- 「忙しいのに来ていただいて」とねぎらいの言葉をかけ、「一緒に考えましょう」という姿勢を示す。
- 教師は話しすぎないように気をつける。
- 保護者の話をさえぎらず、耳を傾けしっかり受け止める。

### <家庭訪問>

- 家庭訪問の予定を知らせる。  
（教師に会うか会わないかは、子どもに決めさせる。）
- 子どもに会えないこともある。  
（「今は、会いたくないのだ」と理解して、その日は深追いしない。）
- 保護者の不安な気持ちに寄り添い、じっくりと話を聞く。
- 子どもと会えても、長く居すぎない。  
（子どもは教師の訪問を受け入れても、精神的に疲れている。）
- 登校につなげようと焦らない。  
（子どもが「先生とつながっている」と感じるだけでよい。）
- 子どもの趣味や好きなタレントなどの話題から始めるとよい。
- 会話だけでなく、ゲームや遊びなどを一緒にする。  
（多面的なかかわりを心掛ける事で、心が通じる場合がある。）